

造血幹細胞移植

● 造血幹細胞移植とは

造血器悪性腫瘍(白血病、悪性リンパ腫)や正常な血液を作ることが困難となる疾患(再生不良性貧血など)の症例に対して、造血幹細胞を移植(静脈より点滴で緩徐に輸注)して正常な血液を作ることができるようにする治療です。

自分の造血幹細胞を移植する場合(自家移植)と他人から造血幹細胞を頂いて移植する場合(同種移植)があります。

● 住友病院での実績(平成17年以降について)

自家末梢血幹細胞移植 23例 同種末梢血幹細胞移植 6例 同種骨髄幹細胞移植 1例

● 住友病院で現在行っている移植は

○骨髄移植(BMT)

正常な自己の骨髄またはHLA型が適合する他人の骨髄を移植する。全身麻酔下で骨髄穿刺によって採取する。

○末梢血幹細胞移植(PBSCT)

末梢血幹細胞は化学療法による骨髄抑制からの回復期やG-CSF投与後に著しく増加するので、化学療法後やG-CSF投与後に細胞分離装置(当院ではCOM.TEC)を用いて、末梢血幹細胞を採取する。

※臍帯血移植(CBT)については近年中に開始出来るよう、準備をすすめています。

● 対象としている疾患は

急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、慢性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群
再生不良性貧血、多発性骨髄腫、ホジキンリンパ腫、非ホジキンリンパ腫 等

● 入院施設

当院の13階病棟の一角に、化学療法のための無菌ゾーンを設置しています。このゾーン内は層流が陽圧で一定方向に流され、高度に無菌化（1立方フィートあたり塵埃が100個以下のクラス100ないし1000個以下のクラス1000のレベル）された個室が8床あって、化学療法を伴う骨髄抑制時期を安全にサポート出来る体制を整えており、関西圏でも有数の設備を誇っています。



【化学療法センターナースステーション】



【クラス100の無菌室】



【血液成分分離装置】

血漿吸着／交換等の一般的治療から細胞治療及び最先端の再生医療にわたる広範な治療に対応する汎用型血液成分分離装置です。



一般財団法人

住友病院

血液内科